

大学生の音楽との関わり方に関する実態調査

鹿島里渚

音楽の聴取方法は時代によって変化しており、レコードからカセットテープ、ウォークマン、CD が登場し主流化していった。近年は、デジタル化とインターネットの普及により、YouTube などの動画配信サービス、Spotify をはじめとする音楽配信サービスなど「ストリーミング再生」が主流化し、好きな時に好きな場所で音楽を楽しめる時代になった。

本論文では、時代とともに変化してきた音楽社会の中で、現代の大学生が音楽とどのように関わっているのかを明らかにすることを目的とし、アンケート調査とヒアリング調査を行った。

調査の結果、YouTube や Spotify などのストリーミング再生、月額制音楽配信サービス、TikTok などの複数の媒体を使い分けながら、移動や作業の時間を中心とした「ながら聴取」を日常的に行っていることが明らかになった。また、新しい音楽の発見経路としては友人に加え、TikTok や Instagram などの SNS を通じて新しい曲に触れる機会が増え、聴取も容易になったことで知っている曲やアーティストの幅が増える事がわかった。さらに、音楽を聴くことで自身の気分や感情の調整に繋がっていることが明らかになった。